

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	47	大学等名	小樽商科大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革加速については、「グローバル戦略推進センター」を中心とした教学マネジメントの下で、グローバル人材育成の推進に向け、独自の入試制度「グローバル総合入試」の設置やクォーター制の導入など、長期学外学修プログラムの展開を可能とする体制を整えるなど、教育改革を加速させている点は高く評価できる。

事業の具体的な取組みの進捗状況については、各年度の計画に基づき、先進的なアクティブ・ラーニング教育方法の開発や教育効果の可視化と検証、普及を重点的に推進している点は十分評価できる。目標の達成状況に関しては、目標値に未達の指標があるものの、達成に向け努力をしている点は評価できる。今後もこの努力を継続することで、目標達成に結びつくことが期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、「北海道経済の発展に寄与するグローバル人材」の育成という明確なビジョンの実現のため、平成27年に学長をセンター長とする「グローバル戦略推進センター」を設置し、毎年新しい取組を進めるための機能強化戦略を全学的に効果的に実行・支援するための体制を構築している点は高く評価できる。また、最終年度には補助金額の2倍以上の学内予算の措置を行っており、専任コーディネーター人件費の学内予算化が図られていることに加え、令和2年度からグローバル教育部門専任教員2名が配置されるなど、補助期間終了後も規模を縮小せずに事業を継続するための資金確保および人的拡充を行っている点も評価できる。

事業成果の普及については、地域連携ブリッジ教育プログラムにおいて、当該大学教員と小中学校の教諭が参画する「小樽市初中等英語教育連携協議会」を設置し、教職課程に在籍する学生が市内小学校での英語授業補助の実施が開始されるなど、積極的に新しいプログラムを開発し、地域連携を進めながら地域活性化に貢献している点は高く評価できる。